

公共施設マネジメントの取組
と
津久井地区の現状

公共施設のあり方の見直し

- 「施設の老朽化」や「人口減少・少子高齢化」「社会・環境の変化」など、公共施設を取り巻く環境は時代とともに大きく変化しています。

施設の老朽化

- ・昭和40年代～50年代の人口急増期に多くの公共施設を整備
- ・これらの施設の老朽化が進み、今後、改修や建替え（更新）に多額の費用が必要

人口減少・少子高齢化

- ・人口減少や少子高齢化が進行（2015年⇒2065年）
- ・日本の人口は、1億2,709万人⇒8,808万人
- ・高齢化率は、26.6%⇒38.4%

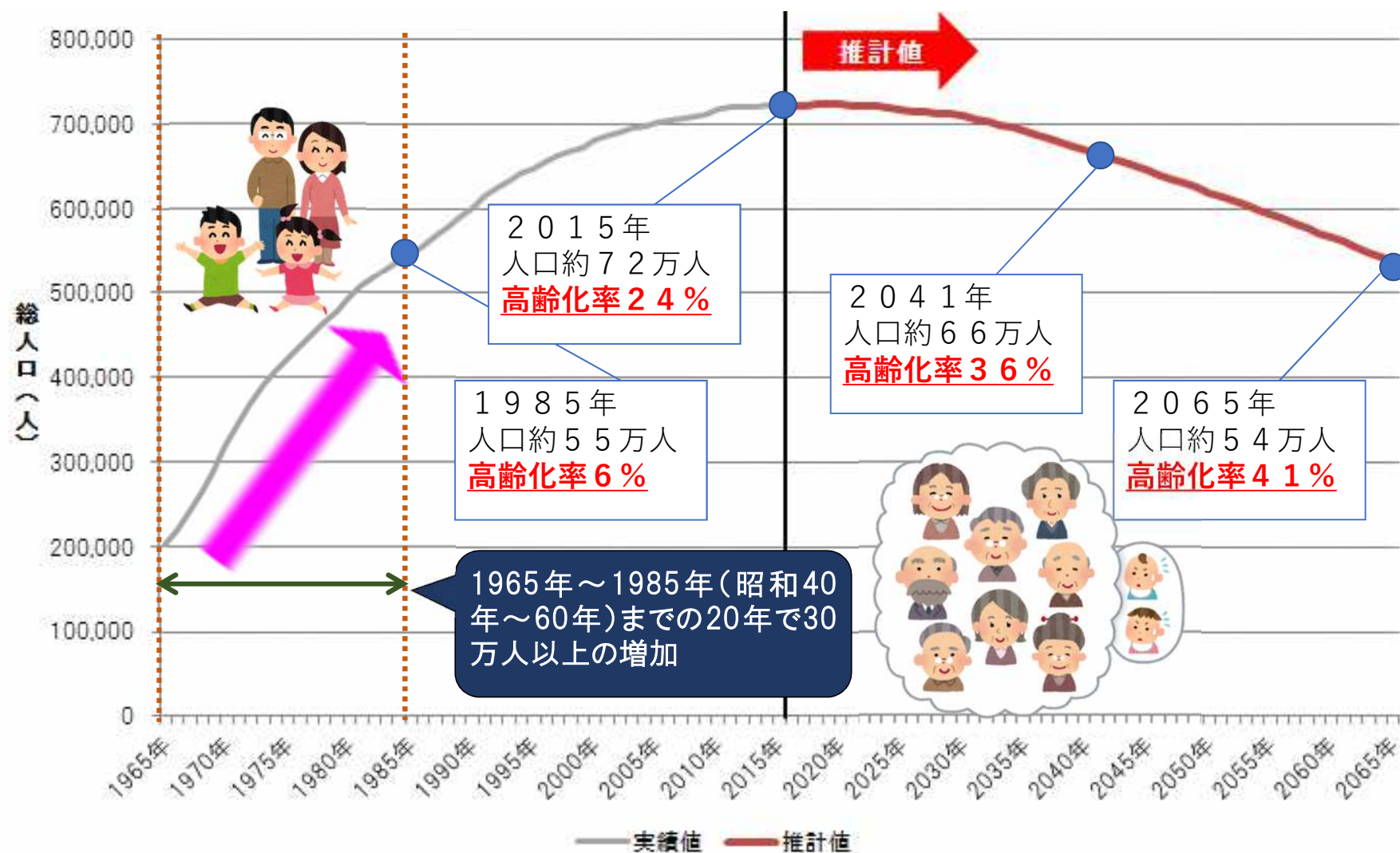
社会・環境の変化

- ・今後想定される大規模災害への備え
- ・個人の趣味や活動の多様化など、求められる役割の変化
- ・技術革新によるサービスのあり方の変化

公共施設を取り巻く環境は時代とともに大きく変化

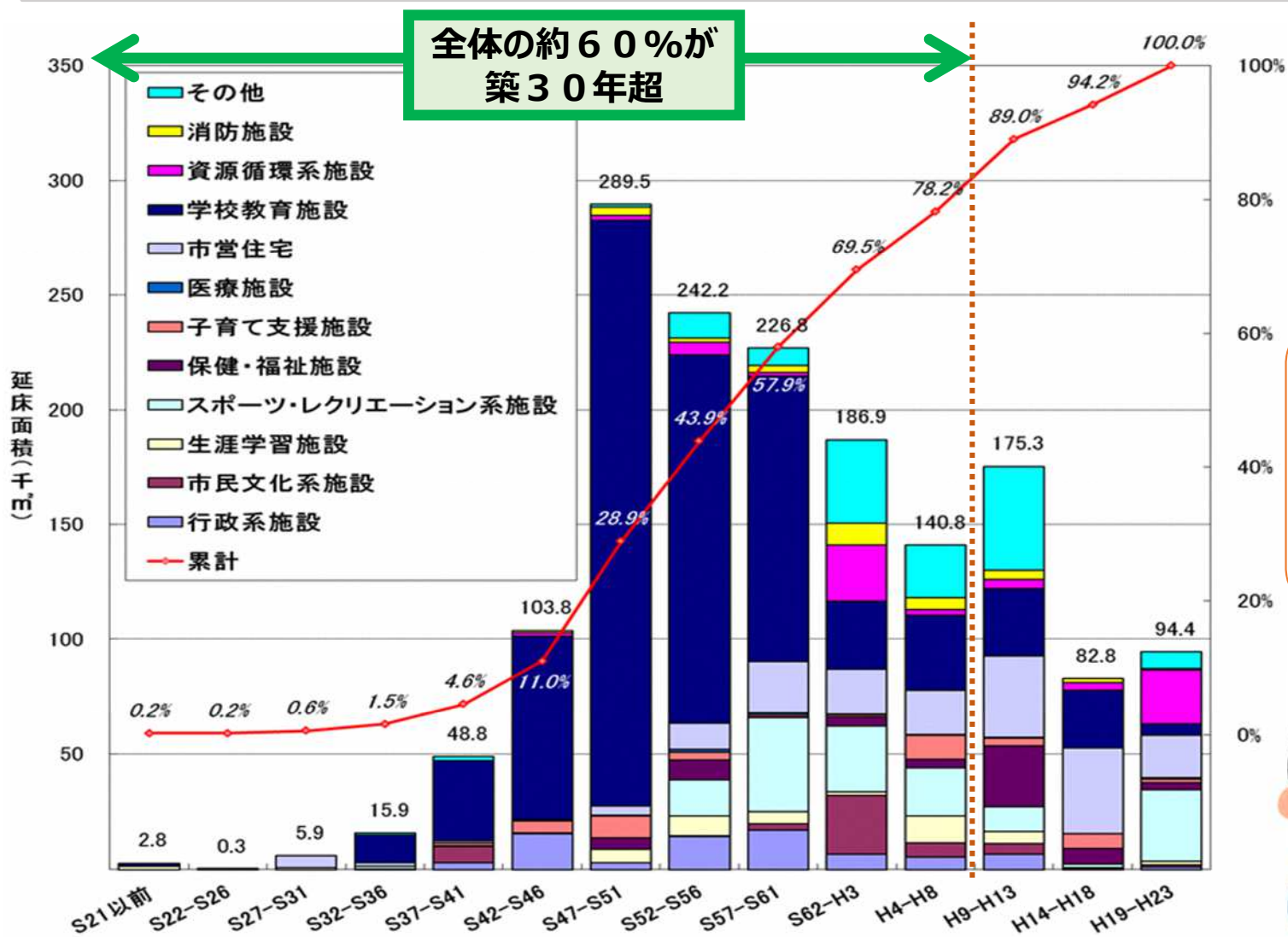
人口減少・少子高齢化

- 相模原市では、2015年時点で人口約72万人、高齢化率24%となりました。
- 今後も人口減少が進み、2065年には人口約54万人（2015年から約18万人減少）、高齢化率41%（2015年から17%増加）の予測です。



公共施設の老朽化と改修・更新費用の確保

- 相模原市の公共施設は、全体の約60%が築30年超えており、老朽化が進行しています。
- 今後、多くの施設が一齐に改修や建替え（更新）の時期を迎え、多額の費用が必要となる見込みです。
- 人口減少や少子高齢化が進み、厳しい財政状況が見込まれる中、今あるすべての施設をこれまでと同様に維持していくことは困難な状況です。

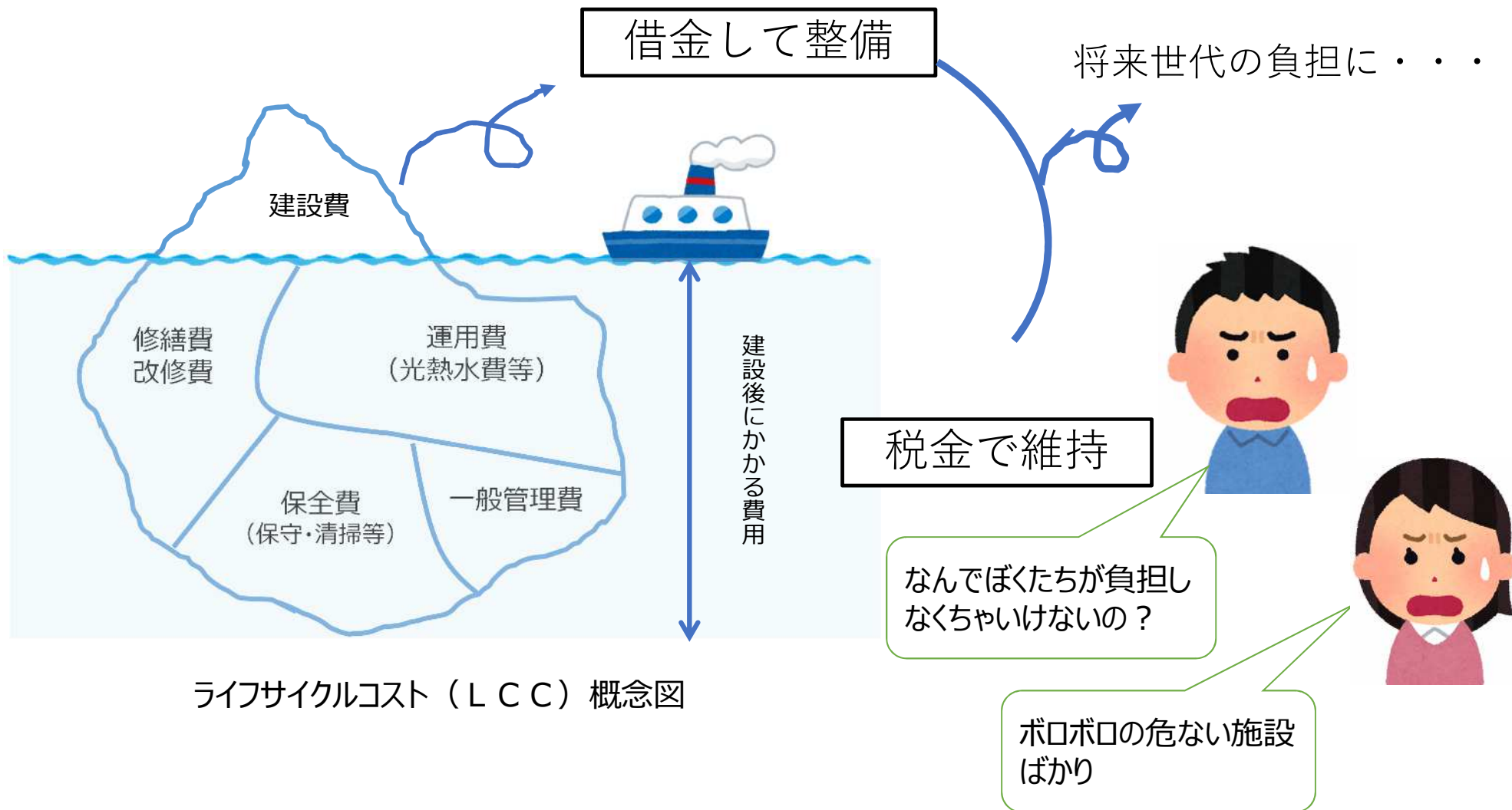


これだけの建物を一齐に建て替えるお金があるのか心配だな。
その後につくった建物の修理も必要だし、困ったな。



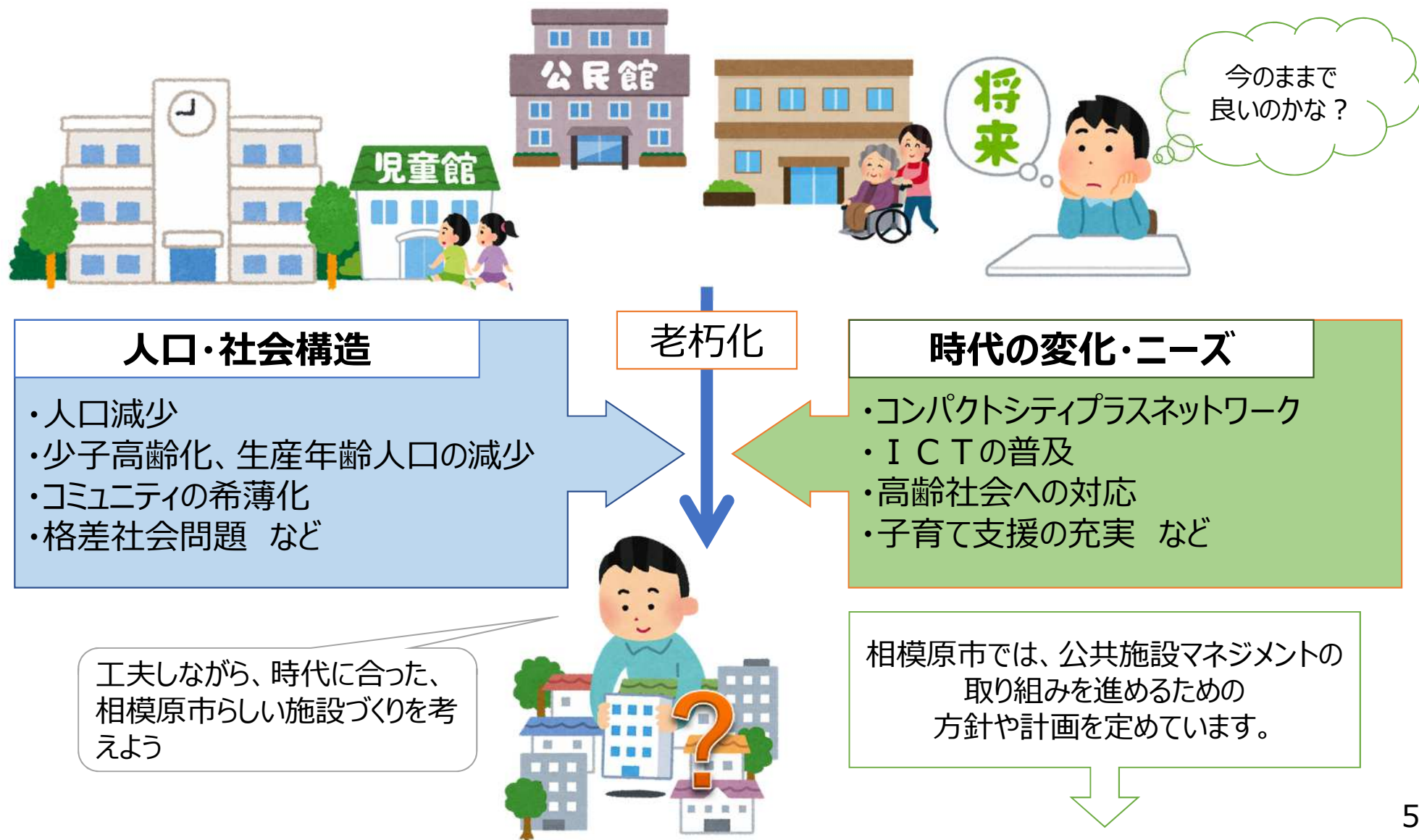
施設の整備・維持にかかる将来負担の増加

- 公共施設は建設して終わりではなく、その後の維持に多額の費用がかかります。
- これらの費用の多くは税金で賄っており、過剰な施設を保有し続けると、次の世代の負担の増加につながります。

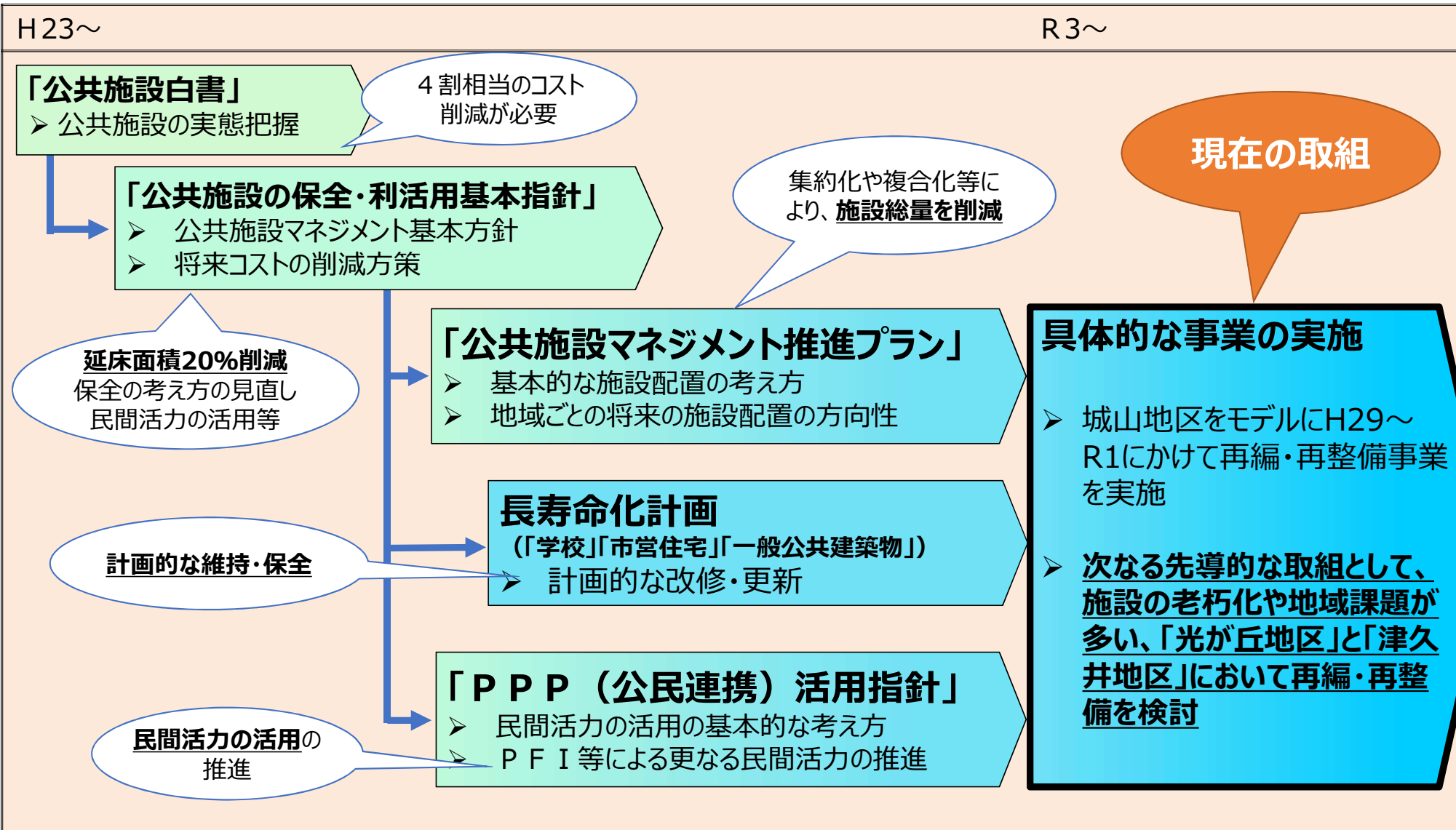


次世代に引き継ぐための公共施設のあり方

- 相模原市では、公共施設の老朽化や施設を取り巻く環境の変化を踏まえ、公共施設マネジメントの取組を進めるための方針や計画を作成し、相模原市らしい施設づくりを考えています。



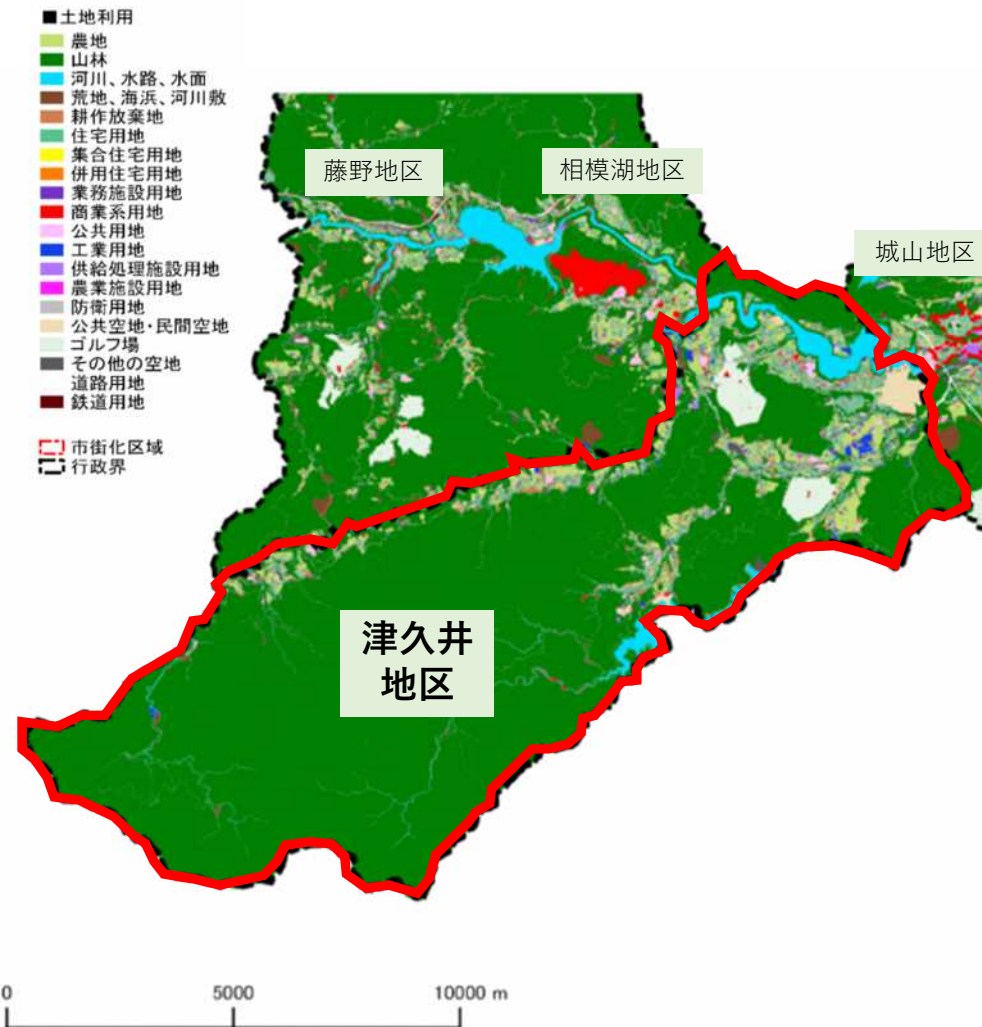
相模原市における公共施設マネジメントの取組



津久井地区の現状 (地勢・特色、人口、公共施設)

津久井地区の地勢・特色

- 津久井地区は、旧津久井郡津久井町をまちづくり区域としており、面積は122,04平方キロメートルと22地区あるまちづくり区域の中で、最も面積の広い地区です。
- 国道413号などの沿道を中心に生活拠点が形成されています。
- 神奈川県の水源地としての津久井湖及び宮ヶ瀬湖、また、道志川やそれらを支える広大な水源林などの豊かな自然を有する自然環境に恵まれた地域です。



宮ヶ瀬湖



尾崎号堂記念館



青根緑の休暇村
キャンプ場



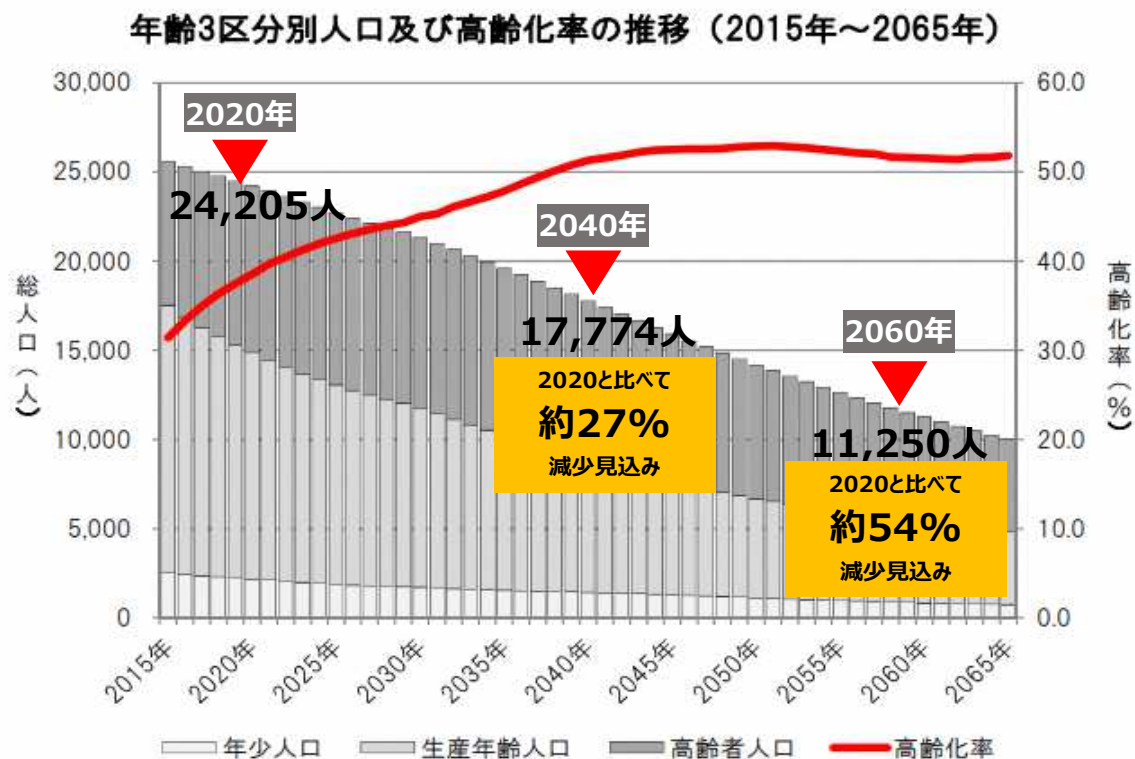
青根緑の休暇村
いやしの湯



つくい中野夏祭り

津久井地区の人口

- 津久井地区の人口は、市内で2番目に減少割合の大きい地区で、20年後で約18,000人、40年後は、現在の約半分の11,000人まで減少します。
- 年齢3区分別に見ると、年少人口及び生産年齢人口は、今後一貫して減少見込みで、近年は、少子化による教育環境の維持が難しくなりつつある状況です。
- 高齢者人口のピークは2025年の9,670人、高齢化率は2038年に50%を超える見込みであり、医療・介護など高齢化社会への対応が求められています。



出典：2015年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計（平成30年3月）



「青和学園」に移行による
青野原小学校・中学校小
中合同卒業証書授与式



閉校した青根中学校



相模原西メディカルセン
ター急病診療所



青野原診療所

出典：タウンニュースさがみはら緑区版4月2日号

津久井地区及び津久井総合事務所周辺の公共施設の状況

- 中野・三井、津久井中央、串川、鳥屋、青野原、青根の6つのエリアを基本に、まちづくりセンター又は出張所・連絡所、保育所、小学校、中学校などの地域施設が立地しています。
- 公共施設マネジメント推進プランにおいては、「津久井総合事務所は、津久井地域における行政運営の拠点として、公民館や保健センターなどの周辺施設も含めた中で、一体的に公共施設の再編・再配置を検討する」と位置付けています。

○津久井総合事務所周辺（※中野・三井、津久井中央エリアの施設を抜粋）

施設分類	施設名	建築年度	築年数	延床面積
庁舎等（本庁舎等）	津久井総合事務所	1964	57	2,335
庁舎等（連絡所）	津久井中央連絡所	1974	47	—
集会施設	小網地域センター	1990	31	358
	津久井中央地域センター	1974	47	88
公民館等	津久井中央公民館	1981	40	2,198
	津久井生涯学習センター	1974	47	1,595
保健施設	津久井保健センター	1987	34	941
障害福祉施設	津久井障害者地域活動支援センター	1993	28	416
	津久井地域福祉センター	2000	21	236
老人福祉センター等	津久井老人福祉センター	1981	40	510
保育所・幼稚園等	中野保育園	1976	45	857
	津久井中央保育園	2014	7	663
児童クラブ	津久井中央児童クラブ	1976	45	63
	中野児童クラブ	1992	29	121
診療所	相模原西メディカルセンター急病診療所	1980	41	544
小学校	津久井中央小学校	1976	45	5,139
	中野小学校	1972	49	6,813
中学校	中野中学校	1970	51	7,784

築40年以上

文化財を除く一般公共建築物の中では、市体育館に次ぐ2番目に古い施設

改革プランにおける再整備の検討候補対象施設

本ワークショップで検討する施設

- 本ワークショップでは、「津久井総合事務所」を中心に、「津久井中央公民館・津久井老人福祉センター」、「津久井保健センター」、「相模原西メディカルセンター急病診療所」の4施設を検討対象施設とします。
- 4施設以外でも、一緒に検討したほうが良い施設があれば、追加して検討可能です。
- (1～5は、総合事務所周辺にある主な公共施設です)

区分	施設
検討対象施設	①津久井総合事務所
	②津久井中央公民館・津久井老人福祉センター
	③津久井保健センター
	④相模原西メディカルセンター急病診療所
周辺にある主な公共施設	<input type="checkbox"/> 1中野小学校
	<input type="checkbox"/> 2中野中学校
	<input type="checkbox"/> 3中野保育園
	<input type="checkbox"/> 4津久井地域福祉センター
	<input type="checkbox"/> 5津久井障害者地域活動支援センター

配置状況①津久井総合事務所周辺



1 津久井総合事務所
建築年度S39-H18 延床面積2,335㎡



2 津久井中央公民館・
津久井老人福祉センター
建築年度S56 延床面積2,546㎡



3 津久井保健センター
建築年度S62 延床面積941㎡



2 中野中学校
建築年度S45-S63 延床面積7,784㎡



1 中野小学校
建築年度S47-H23
延床面積6,813㎡

配置状況②相模原西メディカルセンター急病診療所 ～津久井総合事務所周辺～中野保育園

4 相模原西メディカルセンター急病診療所
建築年度S55 延床面積544㎡



相模原西メディカルセンター急病診療所

5 津久井障害者地域活動支援センター
建築年度H5 延床面積230㎡



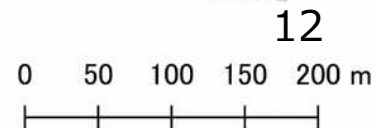
3 中野保育園
建築年度S51 延床面積857㎡



4 津久井地域福祉センター
建築年度H12 延床面積236㎡

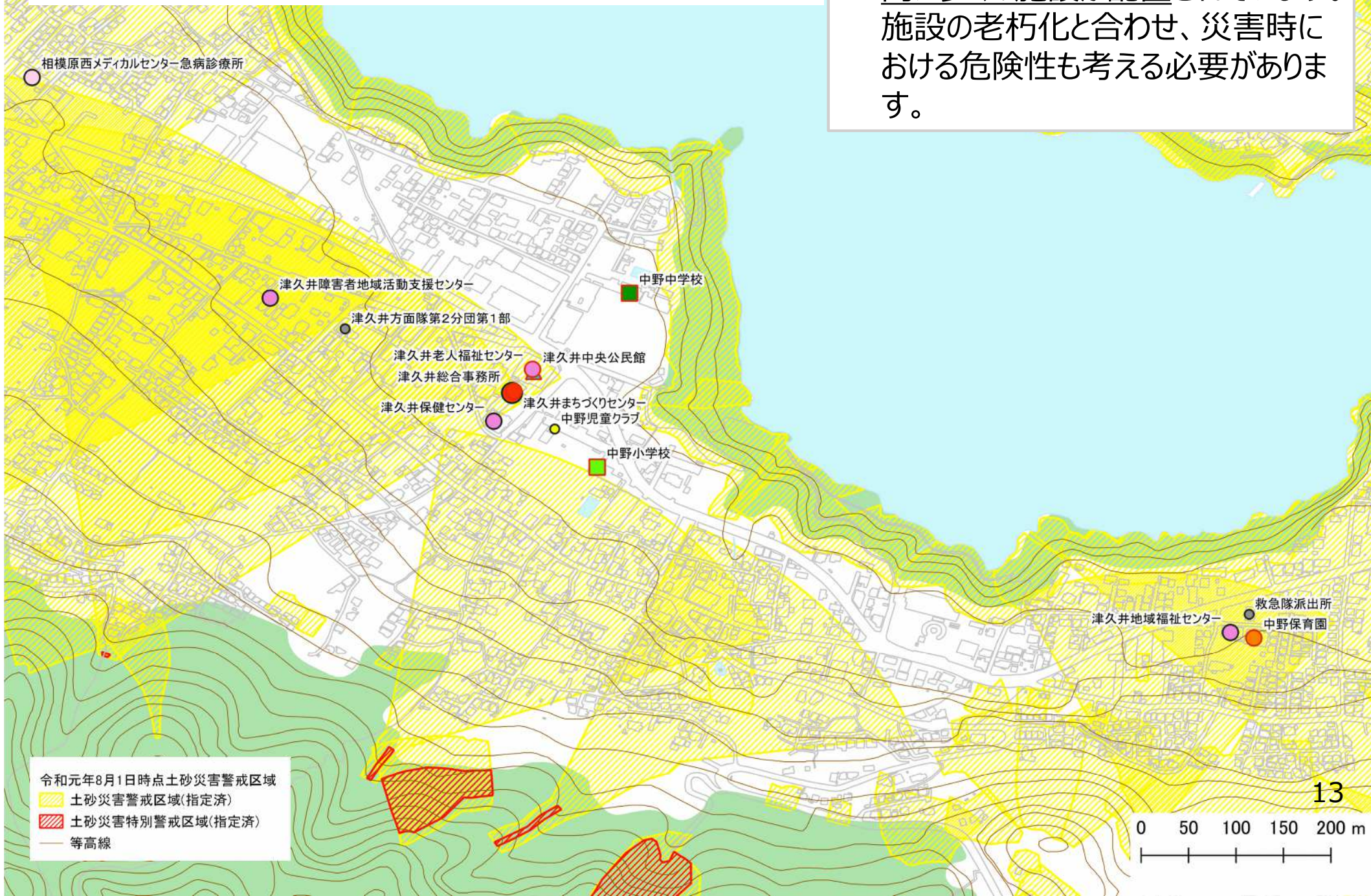


救急隊派出所
津久井地域福祉センター
中野保育園



土砂災害警戒区域と各施設の配置状況

▶ 土砂災害警戒区域（100ゾーン）内に多くの施設が配置されています。施設の老朽化と合わせ、災害時における危険性も考える必要があります。



参考事例①（埼玉県志木市）【複合化】

➤ 埼玉県志木市では、「小さなまちの特徴と市民力が生かせる、充実した機能が確保された『スマート』で『コンパクト』な市民に親しまれる庁舎」を基本理念とした庁舎の整備を進めています。



- ✓ 利用しやすい窓口と待合スペース
- ✓ 会議や講演会などのイベントに利用できるコンパクトな市民ホールや展望ロビーを設置

市民ホールイメージ



窓口と待合スペースイメージ

- ✓ 災害（水害）を想定した設計
浸水想定区域のため、浸水レベルに対応した諸室の配置や設計
【レベル1】市民の一時避難場所に利用できるグランドテラスを過去最大の洪水より高い位置に設置
【レベル2】庁舎の1階は、ハザードマップの最大浸水よりも高い位置
【レベル3】想定外の浸水への備えとして、機械室や電気室、災害対策本部等は2階以上に配置

参考事例②（富山県氷見市）【転用】

- 富山県氷見市では、旧市庁舎の老朽化や耐震性能不足などのさまざまな問題を解決するため、閉校となった旧富山県立有磯高等学校の体育館と校舎棟の一部をリノベーションし、市庁舎として使用しています。



- 庁舎づくりへの意見を取り入れるためのワークショップの開催



- 建替えに比べ、約18億円のコストダウンを実現（29.6億円→11.1億円）



- 体育館の大空間を生かし、窓口サービスを集約化
- 広い駐車スペースを確保し、駐車場不足を解消



次回（第2回）ワークショップのお知らせ

開催日：令和3年10月30日（土）

時間：午後2時00分から午後4時30分まで

集合場所：津久井中央公民館3階 研修室A・B・C

第2回ワークショップテーマ

施設を見て、“今”を深掘りしよう！

- まちあるきによる対象施設周辺の状況把握
- 各施設の現状把握

※まちあるきを予定していますので、歩きやすい服装でお越しください。

（天候によっては、プログラムを変更する場合があります）

※開催1週間前までに、開催通知を送付しますので、通知内容をご確認下さい。